

小松島市和田島地区のワカメ産地強化に向けた生産技術の開発

[研究機関名] 水産研究課（環境増養殖担当）

[共同機関名] 和田島漁協

[研究期間] 平成25年度～27年度

[事業] 農林水産物の増産や販売力強化を支える研究開発事業（県費）

■ 研究の背景・目的

- かつて養殖ワカメの一大産地であった和田島地区の生産量は、近年、高水温化による漁期の短縮や頻発する色落ち現象、生産者数の減少等により、ピーク時の約3割の水準に落ち込んでいます。
- また、近年は温暖化等の影響で、陸上水槽で半年間培養する従来型の種苗生産が極めて不安定になっており、養殖に必要な種苗の量が確保できなくなっています。
- そこで、産地の回復・強化に向け、現在の和田島漁場の環境に適応した新品種の開発と気候の影響をうけにくい種苗生産技術の開発に取り組みました。

■ 研究の成果

- 従来の鳴門産早生ワカメに暖海性の阿南市椿泊産天然ワカメを交配させた新品種を和田島漁場で養殖した結果、葉重(可食部重量)は、従来品種の1.1～1.6倍になりました。
- 新品種の品質は肉厚で皺が少なく、多くの生産者・加工業者から、塩蔵ワカメとして商品化が可能と評価されました。
- 新品種の生産に不可欠な「フリー配偶体を用いた種苗生産法」を生産現場に普及するため、漁業者が実施できる実用的な種苗生産技術を開発しました。

■ 期待される効果、今後の展開

- 新品種は生長が早いため、特に、水温が高く、色落ちの影響が少ない漁期前半(1月～2月前半)の収量増が期待できます。
- 漁期前半だけでなく、3月末まで収穫できるため、長期間にわたり高収量が見込めます。このため、「和田島わかめ」の増産及び経営の安定化を図ることができます。
- 一期作目の早生種苗に適した新品種の開発によって、二期作養殖への展開・普及が見込まれ、既存漁場の有効活用を図ることができます。
- 新品種の普及とともに、短期間で均質な種苗が生産可能な「フリー配偶体による種苗生産法」の導入が進み、和田島地区で安定的にワカメの種苗を確保できるようになります。

小松島市和田島地区のワカメ産地強化に向けた生産技術の開発

現在の和田島漁場の環境に適応した養殖品種と
フリー配偶体を用いた実用的な種苗生産技術を開発

研究の背景・目的

- ・ 和田島地区は近年、漁場環境の変化、生産者数の減少等により、ワカメ生産量が激減
- ・ 産地の再生に向け、現在の和田島漁場の環境に適応した新品種と種苗生産技術を開発

研究成果の内容

- ・ 阿南市椿泊産ワカメとの交配により、**収量アップ**が望め、**肉厚でシワが少ない**新品種を開発した。
- ・ 生産現場で実施できる実用的なフリー配偶体種苗生産技術を開発した。

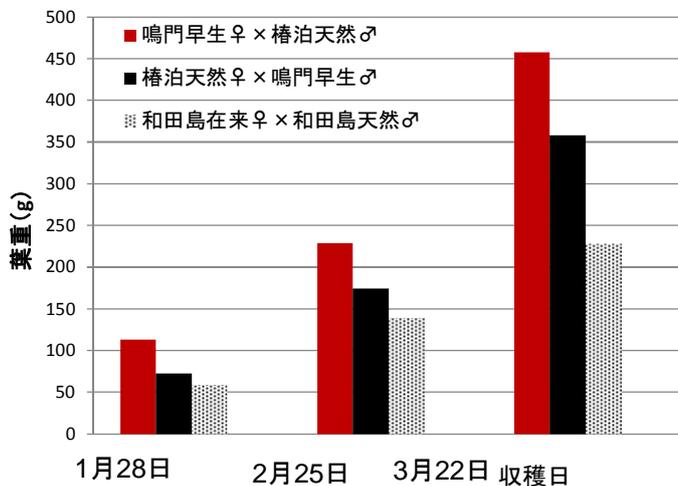


図2 新品種のワカメ

新品種(鳴門早生♀ × 椿泊天然♂)の収量: 従来品種の1.1~1.6倍

図1 養殖期間中のワカメの平均葉重(可食部重量)の推移

導入メリット

- ・ 1月~3月まで長期間、**高収量**を期待できる。
- ・ **塩蔵ワカメ**として商品化可能
- ・ フリー配偶体を用いた種苗生産法の導入により、**短期間で新品種の種苗生産が可能**



図3 新品種の塩蔵加工品

生産者の皆様へ

- ・ 新品種の種苗を生産するためには、雄と雌のフリー配偶体からの種苗生産法を新たに導入する必要があります。

問合せ先 水産研究課 環境増養殖担当
電話 088-688-0555